**国が営利化、広まる「分わきまえろ」　長谷部×杉田対談**

選挙でいくら示しても、政権に一顧だにされない沖縄の民意。紛争地で拘束されたジャーナリストに向けられる[自己責任論](http://www.asahi.com/topics/word/%E8%87%AA%E5%B7%B1%E8%B2%AC%E4%BB%BB%E8%AB%96.html)。子どもを作らない[ＬＧＢＴ](http://www.asahi.com/topics/word/%EF%BC%AC%EF%BC%A7%EF%BC%A2%EF%BC%B4.html)に投げかけられた「生産性がない」の暴論――。一見ばらばらな事象の底流にある「『分』をわきまえろ」という論理について、長谷部恭男・[早稲田大](http://www.asahi.com/topics/word/%E6%97%A9%E7%A8%B2%E7%94%B0%E5%A4%A7%E5%AD%A6.html)教授（憲法）と杉田敦・[法政大](http://www.asahi.com/topics/word/%E6%B3%95%E6%94%BF%E5%A4%A7.html)教授（政治理論）に語り合ってもらった。（構成　編集委員・高橋純子）

　杉田敦・[法政大](http://www.asahi.com/topics/word/%E6%B3%95%E6%94%BF%E5%A4%A7.html)教授　[沖縄県](http://www.asahi.com/area/okinawa/)が米軍[普天間飛行場](http://www.asahi.com/topics/word/%E6%99%AE%E5%A4%A9%E9%96%93%E9%A3%9B%E8%A1%8C%E5%A0%B4.html)の[名護市](http://www.asahi.com/topics/word/%E5%90%8D%E8%AD%B7%E5%B8%82.html)[辺野古](http://www.asahi.com/topics/word/%E8%BE%BA%E9%87%8E%E5%8F%A4.html)への移設の賛否を問う県民投票を来年２月２４日に行うことを決めました。しかし、県知事選や[那覇市](http://www.asahi.com/topics/word/%E9%82%A3%E8%A6%87%E5%B8%82.html)長選などでも、[辺野古](http://www.asahi.com/topics/word/%E8%BE%BA%E9%87%8E%E5%8F%A4.html)移設が争点となり、反対の民意はすでに示されています。[安倍政権](http://www.asahi.com/topics/word/%E5%AE%89%E5%80%8D%E6%94%BF%E6%A8%A9.html)は、自身が勝利した[国政選挙](http://www.asahi.com/topics/word/%E5%9B%BD%E6%94%BF%E9%81%B8%E6%8C%99.html)は「選挙結果が全て」なのに、地方の選挙結果は無視、ということでしょうか。

　長谷部恭男・[早稲田大](http://www.asahi.com/topics/word/%E6%97%A9%E7%A8%B2%E7%94%B0%E5%A4%A7%E5%AD%A6.html)教授　選挙は、各政党が様々な政策をパッケージにしたものを選挙民に提示して戦いますが、県民投票では単一争点に対する民意が明確に示されます。政府は、安全保障の問題は地方の民意で決めることではないと言い張るでしょうが、衝突する多様な利害や見解を包み込みながら調整し、国全体の中長期的利益を実現するのが政治というものです。

　杉田　ところが最近の日本政府は調整を放棄し、時には私企業であるかのように振る舞っている。たとえば[沖縄県](http://www.asahi.com/area/okinawa/)が[辺野古](http://www.asahi.com/topics/word/%E8%BE%BA%E9%87%8E%E5%8F%A4.html)の埋め立て承認を撤回すると、[防衛省](http://www.asahi.com/topics/word/%E9%98%B2%E8%A1%9B%E7%9C%81.html)は行政不服審査法に基づき撤回の効力停止を申し立てました。国土交通相が効力停止を決定し、[防衛省](http://www.asahi.com/topics/word/%E9%98%B2%E8%A1%9B%E7%9C%81.html)は早ければ年内にも土砂投入をしようとしていますが、この法律の目的はあくまでも「国民の権利利益の救済」で、国による申し立ては制度の濫用（らんよう）なのでは？

　長谷部　国も民間の事業者と同じような立場で埋め立て工事を行うことはあり、その際、[地方自治体](http://www.asahi.com/topics/word/%E5%9C%B0%E6%96%B9%E8%87%AA%E6%B2%BB%E4%BD%93.html)の決定に不服があれば審査法を使うこともアリだと思います。ただし今回、[防衛省](http://www.asahi.com/topics/word/%E9%98%B2%E8%A1%9B%E7%9C%81.html)は、安全保障体制への影響などを申し立ての理由にあげており、民間事業者とは明らかに立場を異にしている。ならば審査法を使うのはおかしい。立場を使い分けてはいけません。

　杉田　[玉城デニー](http://www.asahi.com/topics/word/%E7%8E%89%E5%9F%8E%E3%83%87%E3%83%8B%E3%83%BC.html)[沖縄県知事](http://www.asahi.com/topics/word/%E6%B2%96%E7%B8%84%E7%9C%8C%E7%9F%A5%E4%BA%8B.html)は、米国を訪問して[辺野古](http://www.asahi.com/topics/word/%E8%BE%BA%E9%87%8E%E5%8F%A4.html)移設反対を訴えましたが、「文句は日本政府に言ってくれ」と、門前払いに近い対応だったと。

　長谷部　米国の交渉相手は日本政府ですから。

　杉田　たしかに、外交は[主権国家](http://www.asahi.com/topics/word/%E4%B8%BB%E6%A8%A9%E5%9B%BD%E5%AE%B6.html)間でやるのが基本です。しかし日本政府が、国内の切実な声に対して主権を盾に[高飛車](http://www.asahi.com/topics/word/%E9%AB%98%E9%A3%9B%E8%BB%8A.html)な姿勢で臨むのは、[民主国家](http://www.asahi.com/topics/word/%E6%B0%91%E4%B8%BB%E5%9B%BD%E5%AE%B6.html)としては問題がある。むしろ、米国との関係が従属的で、強く言えないツケを国内に回しているだけでは。対ロ交渉で、[北方領土](http://www.asahi.com/topics/word/%E5%8C%97%E6%96%B9%E9%A0%98%E5%9C%9F.html)には[米軍基地](http://www.asahi.com/topics/word/%E7%B1%B3%E8%BB%8D%E5%9F%BA%E5%9C%B0.html)を置かせない方針との報道がありましたが、それなら沖縄の基地についても再考の余地があるはずです。

　長谷部　沖縄に関しては、[主権国家](http://www.asahi.com/topics/word/%E4%B8%BB%E6%A8%A9%E5%9B%BD%E5%AE%B6.html)と地方の対立というよりは、国家を「組織体」として捉える、現政権の国家像にそもそもの問題があるのでは。

　杉田　組織体とは？

　長谷部　営利企業や体育会系の部活動をイメージしてもらうとわかりやすいでしょう。監督の強力なリーダーシップのもと、メンバー一丸となって共通の目標の実現に向かって努力する。メンバー個人がどうしたいかではなく、自らの「分」をわきまえてチームに貢献することが何よりも求められ、目標達成のためなら「悪質[タックル](http://www.asahi.com/topics/word/%E6%97%A5%E5%A4%A7%E3%82%A2%E3%83%A1%E3%83%95%E3%83%88%E9%83%A8%E9%81%95%E5%8F%8D%E8%A1%8C%E7%82%BA.html)」さえも正当化される。そのような国家像に基づけば、沖縄は「分」をわきまえて、国のために基地負担を甘受するのが当たり前だ、わがままを言って足を引っ張るなということになります。

## 「分」から考える日本

　杉田　「分」はいまの日本を考える上でとても重要なキーワードです。先日、[シリア](http://www.asahi.com/topics/word/%E3%82%B7%E3%83%AA%E3%82%A2.html)で拘束されていたフリージャーナリストの[安田純平](http://www.asahi.com/topics/word/%E5%AE%89%E7%94%B0%E7%B4%94%E5%B9%B3.html)さんが解放されましたが、そこで出てきた「[自己責任論](http://www.asahi.com/topics/word/%E8%87%AA%E5%B7%B1%E8%B2%AC%E4%BB%BB%E8%AB%96.html)」も、要は「分をわきまえろ」という議論で、わきまえていないとみなされれば村八分にされる。海外メディアはこれに違和感を表明していますが、少なくとも欧米では、国家の示した方針に必ずしも従う必要はない、とりわけジャーナリストなど、権力からの独立性を通じて社会に貢献すべき人々は自身の責任で判断し、行動するのが当然だという考え方が共有されています。

　長谷部　人のものを盗まないとか人を傷つけないとか、共通のルールを守ったうえで、どう生きるかは全部自分で決めて、その結果も全部自分で引き受ける。それが本来の意味での自己責任です。安田さんは、武装勢力に拘束されるという結果も含めて自分で引き受けたのだから、自己責任を十分に果たしています。

　杉田　子どもを作らない[ＬＧＢＴ](http://www.asahi.com/topics/word/%EF%BC%AC%EF%BC%A7%EF%BC%A2%EF%BC%B4.html)は生産性がない、という暴論も組織体の論理ですね。少子高齢化という「国難」を突破しようと、共通の目標に向かってみんなが頑張っている時になんだと。女は、男はこうでなければとか、家族はこうあるべきだとかいった言説も、詰まるところは「分」をわきまえろという話です。多様性を認めると「分」が自明でなくなり、組織体の中での役割分担が難しくなる、そんなの面倒だという意識がまだまだ社会の底でくすぶっています。

　長谷部　国が組織体になると、国に個人の生き方を決められてしまう。戦前の日本がそうでした。ですから[日本国憲法](http://www.asahi.com/topics/word/%E6%97%A5%E6%9C%AC%E5%9B%BD%E6%86%B2%E6%B3%95.html)は、組織体ではなく、「広場」を国のあり方として提示しているのです。広場には共通の目標なんかない。個人を出発点に、何をするか、どういう生き方をするかは各人が自分で決める。国は各人が行動に際して守るべきルールを定めて、あとは衝突が起きないように見守るだけ。[日本国憲法](http://www.asahi.com/topics/word/%E6%97%A5%E6%9C%AC%E5%9B%BD%E6%86%B2%E6%B3%95.html)はそうした国家像を描いています。

　杉田　国家を組織体とみなしている人ほど憲法に国家目的を書き込みたがるわけですね。個人が出発点なんて気に食わない、共通の目標を掲げるべきだと。安倍さんも１０月の[所信表明演説](http://www.asahi.com/topics/word/%E6%89%80%E4%BF%A1%E8%A1%A8%E6%98%8E%E6%BC%94%E8%AA%AC.html)で、憲法は国の理想を語るものだと述べました。

　長谷部　ただ、広場で生きるのが大変なことは確かです。どう生きるか、どう行動するのかを自分で決めるなんてできない、やりたくないという人にとっては強力なリーダーが引っ張ってくれる組織体の方がよほど居心地がいい。そんな「ヘタレ」根性が[ポピュリズム](http://www.asahi.com/topics/word/%E3%83%9D%E3%83%94%E3%83%A5%E3%83%AA%E3%82%BA%E3%83%A0.html)を引き寄せています。

## 問題点の指摘に応えない「組織体の論理」

　長谷部　[自民党](http://www.asahi.com/topics/word/%E8%87%AA%E6%B0%91%E5%85%9A.html)の[下村博文](http://www.asahi.com/topics/word/%E4%B8%8B%E6%9D%91%E5%8D%9A%E6%96%87.html)・[憲法改正](http://www.asahi.com/topics/word/%E6%86%B2%E6%B3%95%E6%94%B9%E6%AD%A3.html)推進本部長が、改憲論議に消極的な野党を「職場放棄」だと批判しましたが、これも組織体の論理です。憲法を、９条を変えるという共通の目標に向かって、野党も「分」をわきまえて協力するのが当たり前だと。

　杉田　もちろん議論することは重要です。しかし、何を議題にするか、会期をどれくらいとるかによって議論の方向性は変わってくるのであって、それを決めるのは通常与党です。議論の土俵は平等に出来ておらず、野党にとっては絶対的に不利な状況から出発しなければならない。そのため、土俵に上がらないという行動をとらざるを得ない場合もある。それは当然許容されます。野党の最大の武器は議論することだと考えている野党議員もいるようですが、ナイーブに過ぎます。

　長谷部　野党の最大の武器は時間です。会期は決まっているのだから、「時間切れ」に持ち込むのも野党の大事な仕事です。

　杉田　ですが、「職務怠慢」「税金泥棒」といった批判にさらされやすい。

　長谷部　組織体の論理がしみ込んでいるからそういう発想になる。そんな発想に付き合って、なんでもいいからとにかく議論には応じるというのは、組織体の論理を裏側から補強することになりかねません。

　杉田　熟議には本来、時間が必要です。憲法について、なぜ今の政権のもとで議論できないかというと、熟議の機会を奪い、採決強行を平気で繰り返してきた政権だからです。さらに先日の[自民党](http://www.asahi.com/topics/word/%E8%87%AA%E6%B0%91%E5%85%9A.html)人事では、[憲法改正](http://www.asahi.com/topics/word/%E6%86%B2%E6%B3%95%E6%94%B9%E6%AD%A3.html)については超党派で幅広い合意を得るべきだというスタンスの人がことごとく外されました。

　長谷部　今国会における[出入国管理法](http://www.asahi.com/topics/word/%E5%87%BA%E5%85%A5%E5%9B%BD%E7%AE%A1%E7%90%86%E6%B3%95.html)の改正案も、まったくロクな審議をしないまま採決を強行して衆院を通過させました。与党の責任者が、色んな問題があって議論をしたらキリがない、だから採決をするのだと言い出すなど、熟議どころか、議論をしているフリをすることすらやめてしまった感があります。

　杉田　決めること自体を目的とし、問題点の指摘に真摯（しんし）に応えずに突き進むというのは、まさに組織体の論理そのものですね。国民的な議論を要する憲法について言えば、熟議の体制が整うまでは議論できない。これは憲法を変えることに賛成か反対かに関係なく、至極当たり前の態度です。

　長谷部　広場を守るためには、組織体の論理そのものを突破しなければなりません。自分の生き方を自分で決める。その強さと覚悟が必要です。

# （考論　長谷部×杉田）「分をわきまえろ」という論理

選挙でいくら示しても、政権に一顧だにされない沖縄の民意。紛争地で拘束されたジャーナリストに向けられる[自己責任論](http://www.asahi.com/topics/word/%E8%87%AA%E5%B7%B1%E8%B2%AC%E4%BB%BB%E8%AB%96.html)。子どもを作らない[ＬＧＢＴ](http://www.asahi.com/topics/word/%EF%BC%AC%EF%BC%A7%EF%BC%A2%EF%BC%B4.html)に投げかけられた「生産性がない」の暴論――。一見ばらばらな事象の底流にある「『分』をわきまえろ」という論理について、長谷部恭男・[早稲田大](http://www.asahi.com/topics/word/%E6%97%A9%E7%A8%B2%E7%94%B0%E5%A4%A7%E5%AD%A6.html)教授（憲法）と杉田敦・[法政大](http://www.asahi.com/topics/word/%E6%B3%95%E6%94%BF%E5%A4%A7.html)教授（政治理論）に語り合ってもらった。

　（構成　編集委員・高橋純子）

　■沖縄の基地負担、国は調整放棄　杉田／「甘受すべし」は組織体の国家像　長谷部

　杉田敦・[法政大](http://www.asahi.com/topics/word/%E6%B3%95%E6%94%BF%E5%A4%A7.html)教授　[沖縄県](http://www.asahi.com/area/okinawa/)が米軍[普天間飛行場](http://www.asahi.com/topics/word/%E6%99%AE%E5%A4%A9%E9%96%93%E9%A3%9B%E8%A1%8C%E5%A0%B4.html)の[名護市](http://www.asahi.com/topics/word/%E5%90%8D%E8%AD%B7%E5%B8%82.html)[辺野古](http://www.asahi.com/topics/word/%E8%BE%BA%E9%87%8E%E5%8F%A4.html)への移設の賛否を問う県民投票を来年２月２４日に行うことを決めました。しかし、県知事選や[那覇市](http://www.asahi.com/topics/word/%E9%82%A3%E8%A6%87%E5%B8%82.html)長選などでも、[辺野古](http://www.asahi.com/topics/word/%E8%BE%BA%E9%87%8E%E5%8F%A4.html)移設が争点となり、反対の民意はすでに示されています。[安倍政権](http://www.asahi.com/topics/word/%E5%AE%89%E5%80%8D%E6%94%BF%E6%A8%A9.html)は、自身が勝利した[国政選挙](http://www.asahi.com/topics/word/%E5%9B%BD%E6%94%BF%E9%81%B8%E6%8C%99.html)は「選挙結果が全て」なのに、地方の選挙結果は無視、ということでしょうか。

　長谷部恭男・[早稲田大](http://www.asahi.com/topics/word/%E6%97%A9%E7%A8%B2%E7%94%B0%E5%A4%A7%E5%AD%A6.html)教授　選挙は、各政党が様々な政策をパッケージにしたものを選挙民に提示して戦いますが、県民投票では単一争点に対する民意が明確に示されます。政府は、安全保障の問題は地方の民意で決めることではないと言い張るでしょうが、衝突する多様な利害や見解を包み込みながら調整し、国全体の中長期的利益を実現するのが政治というものです。

　杉田　ところが最近の日本政府は調整を放棄し、時には私企業であるかのように振る舞っている。たとえば[沖縄県](http://www.asahi.com/area/okinawa/)が[辺野古](http://www.asahi.com/topics/word/%E8%BE%BA%E9%87%8E%E5%8F%A4.html)の埋め立て承認を撤回すると、[防衛省](http://www.asahi.com/topics/word/%E9%98%B2%E8%A1%9B%E7%9C%81.html)は行政不服審査法に基づき撤回の効力停止を申し立てました。国土交通相が効力停止を決定し、[防衛省](http://www.asahi.com/topics/word/%E9%98%B2%E8%A1%9B%E7%9C%81.html)は早ければ年内にも土砂投入をしようとしていますが、この法律の目的はあくまでも「国民の権利利益の救済」で、国による申し立ては制度の濫用（らんよう）なのでは？

　長谷部　国も民間の事業者と同じような立場で埋め立て工事を行うことはあり、その際、[地方自治体](http://www.asahi.com/topics/word/%E5%9C%B0%E6%96%B9%E8%87%AA%E6%B2%BB%E4%BD%93.html)の決定に不服があれば審査法を使うこともアリだと思います。ただし今回、[防衛省](http://www.asahi.com/topics/word/%E9%98%B2%E8%A1%9B%E7%9C%81.html)は、安全保障体制への影響などを申し立ての理由にあげており、民間事業者とは明らかに立場を異にしている。ならば審査法を使うのはおかしい。立場を使い分けてはいけません。

　杉田　[玉城デニー](http://www.asahi.com/topics/word/%E7%8E%89%E5%9F%8E%E3%83%87%E3%83%8B%E3%83%BC.html)[沖縄県知事](http://www.asahi.com/topics/word/%E6%B2%96%E7%B8%84%E7%9C%8C%E7%9F%A5%E4%BA%8B.html)は、米国を訪問して[辺野古](http://www.asahi.com/topics/word/%E8%BE%BA%E9%87%8E%E5%8F%A4.html)移設反対を訴えましたが、「文句は日本政府に言ってくれ」と、門前払いに近い対応だったと。

　長谷部　米国の交渉相手は日本政府ですから。

　杉田　たしかに、外交は[主権国家](http://www.asahi.com/topics/word/%E4%B8%BB%E6%A8%A9%E5%9B%BD%E5%AE%B6.html)間でやるのが基本です。しかし日本政府が、国内の切実な声に対して主権を盾に[高飛車](http://www.asahi.com/topics/word/%E9%AB%98%E9%A3%9B%E8%BB%8A.html)な姿勢で臨むのは、[民主国家](http://www.asahi.com/topics/word/%E6%B0%91%E4%B8%BB%E5%9B%BD%E5%AE%B6.html)としては問題がある。むしろ、米国との関係が従属的で、強く言えないツケを国内に回しているだけでは。対ロ交渉で、[北方領土](http://www.asahi.com/topics/word/%E5%8C%97%E6%96%B9%E9%A0%98%E5%9C%9F.html)には[米軍基地](http://www.asahi.com/topics/word/%E7%B1%B3%E8%BB%8D%E5%9F%BA%E5%9C%B0.html)を置かせない方針との報道がありましたが、それなら沖縄の基地についても再考の余地があるはずです。

　長谷部　沖縄に関しては、[主権国家](http://www.asahi.com/topics/word/%E4%B8%BB%E6%A8%A9%E5%9B%BD%E5%AE%B6.html)と地方の対立というよりは、国家を「組織体」として捉える、現政権の国家像にそもそもの問題があるのでは。

　杉田　組織体とは？

　長谷部　営利企業や体育会系の部活動をイメージしてもらうとわかりやすいでしょう。監督の強力なリーダーシップのもと、メンバー一丸となって共通の目標の実現に向かって努力する。メンバー個人がどうしたいかではなく、自らの「分」をわきまえてチームに貢献することが何よりも求められ、目標達成のためなら「悪質[タックル](http://www.asahi.com/topics/word/%E6%97%A5%E5%A4%A7%E3%82%A2%E3%83%A1%E3%83%95%E3%83%88%E9%83%A8%E9%81%95%E5%8F%8D%E8%A1%8C%E7%82%BA.html)」さえも正当化される。そのような国家像に基づけば、沖縄は「分」をわきまえて、国のために基地負担を甘受するのが当たり前だ、わがままを言って足を引っ張るなということになります。

　■[自己責任論](http://www.asahi.com/topics/word/%E8%87%AA%E5%B7%B1%E8%B2%AC%E4%BB%BB%E8%AB%96.html)、国に従う意識背景　杉田／[ポピュリズム](http://www.asahi.com/topics/word/%E3%83%9D%E3%83%94%E3%83%A5%E3%83%AA%E3%82%BA%E3%83%A0.html)招く「ヘタレ」根性　長谷部

　杉田　「分」はいまの日本を考える上でとても重要なキーワードです。先日、[シリア](http://www.asahi.com/topics/word/%E3%82%B7%E3%83%AA%E3%82%A2.html)で拘束されていたフリージャーナリストの[安田純平](http://www.asahi.com/topics/word/%E5%AE%89%E7%94%B0%E7%B4%94%E5%B9%B3.html)さんが解放されましたが、そこで出てきた「[自己責任論](http://www.asahi.com/topics/word/%E8%87%AA%E5%B7%B1%E8%B2%AC%E4%BB%BB%E8%AB%96.html)」も、要は「分をわきまえろ」で、わきまえていないとみなされれば村八分にされる。海外メディアはこれに違和感を表明していますが、少なくとも欧米では、国家の示した方針に必ずしも従う必要はない、とりわけジャーナリストなど、権力からの独立性を通じて社会に貢献すべき人々は自身の責任で判断し、行動するのが当然だという考え方が共有されています。

　長谷部　人のものを盗まないとか人を傷つけないとか、共通のルールを守ったうえで、どう生きるかは全部自分で決めて、その結果も全部自分で引き受ける。それが本来の意味での自己責任です。安田さんは、武装勢力に拘束されるという結果も含めて自分で引き受けたのだから、自己責任を十分に果たしています。

　杉田　子どもを作らない[ＬＧＢＴ](http://www.asahi.com/topics/word/%EF%BC%AC%EF%BC%A7%EF%BC%A2%EF%BC%B4.html)は生産性がない、という暴論も組織体の論理ですね。少子高齢化という「国難」を突破しようと、共通の目標に向かってみんなが頑張っている時になんだと。女は、男はこうでなければとか、家族はこうあるべきだとかいった言説も、詰まるところは「分」をわきまえろという話です。多様性を認めると「分」が自明でなくなり、組織体の中での役割分担が難しくなる、そんなの面倒だという意識がまだまだ社会の底でくすぶっています。

　長谷部　国が組織体になると、国に個人の生き方を決められてしまう。戦前の日本がそうでした。ですから[日本国憲法](http://www.asahi.com/topics/word/%E6%97%A5%E6%9C%AC%E5%9B%BD%E6%86%B2%E6%B3%95.html)は、組織体ではなく、「広場」を国のあり方として提示しているのです。広場には共通の目標なんかない。個人を出発点に、何をするか、どういう生き方をするかは各人が自分で決める。国は各人が行動に際して守るべきルールを定めて、あとは衝突が起きないように見守るだけ。[日本国憲法](http://www.asahi.com/topics/word/%E6%97%A5%E6%9C%AC%E5%9B%BD%E6%86%B2%E6%B3%95.html)はそうした国家像を描いています。

　杉田　国家を組織体とみなしている人ほど憲法に国家目的を書き込みたがるわけですね。個人が出発点なんて気に食わない、共通の目標を掲げるべきだと。安倍さんも１０月の[所信表明演説](http://www.asahi.com/topics/word/%E6%89%80%E4%BF%A1%E8%A1%A8%E6%98%8E%E6%BC%94%E8%AA%AC.html)で、憲法は国の理想を語るものだと述べました。

　長谷部　ただ、広場で生きるのが大変なことは確かです。どう生きるか、どう行動するのかを自分で決めるなんてできない、やりたくないという人にとっては強力なリーダーが引っ張ってくれる組織体の方がよほど居心地がいい。そんな「ヘタレ」根性が[ポピュリズム](http://www.asahi.com/topics/word/%E3%83%9D%E3%83%94%E3%83%A5%E3%83%AA%E3%82%BA%E3%83%A0.html)を引き寄せています。

　■熟議避ける与党、採決強行連発　杉田／野党の欠席、「時間切れ」も武器　長谷部

　長谷部　[自民党](http://www.asahi.com/topics/word/%E8%87%AA%E6%B0%91%E5%85%9A.html)の[下村博文](http://www.asahi.com/topics/word/%E4%B8%8B%E6%9D%91%E5%8D%9A%E6%96%87.html)・[憲法改正](http://www.asahi.com/topics/word/%E6%86%B2%E6%B3%95%E6%94%B9%E6%AD%A3.html)推進本部長が、改憲論議に消極的な野党を「職場放棄」だと批判しましたが、これも組織体の論理です。憲法を、９条を変えるという共通の目標に向かって、野党も「分」をわきまえて協力するのが当たり前だと。

　杉田　もちろん議論することは重要です。しかし、何を議題にするか、会期をどれくらいとるかによって議論の方向性は変わってくるのであって、それを決めるのは通常与党です。議論の土俵は平等に出来ておらず、野党にとっては絶対的に不利な状況から出発しなければならない。そのため、土俵に上がらないという行動をとらざるを得ない場合もある。それは当然許容されます。野党の最大の武器は議論することだと考えている野党議員もいるようですが、ナイーブに過ぎます。

　長谷部　野党の最大の武器は時間です。会期は決まっているのだから、「時間切れ」に持ち込むのも野党の大事な仕事です。

　杉田　ですが、「職務怠慢」「税金泥棒」といった批判にさらされやすい。

　長谷部　組織体の論理がしみ込んでいるからそういう発想になる。そんな発想に付き合って、なんでもいいからとにかく議論には応じるというのは、組織体の論理を裏側から補強することになりかねません。

　杉田　熟議には本来、時間が必要です。憲法について、なぜ今の政権のもとで議論できないかというと、熟議の機会を奪い、採決強行を平気で繰り返してきた政権だからです。さらに先日の[自民党](http://www.asahi.com/topics/word/%E8%87%AA%E6%B0%91%E5%85%9A.html)人事では、[憲法改正](http://www.asahi.com/topics/word/%E6%86%B2%E6%B3%95%E6%94%B9%E6%AD%A3.html)については超党派で幅広い合意を得るべきだというスタンスの人がことごとく外されました。

　長谷部　今国会における[出入国管理法](http://www.asahi.com/topics/word/%E5%87%BA%E5%85%A5%E5%9B%BD%E7%AE%A1%E7%90%86%E6%B3%95.html)の改正案も、まったくロクな審議をしないまま採決を強行して衆院を通過させました。与党の責任者が、色んな問題があって議論をしたらキリがない、だから採決をするのだと言い出すなど、熟議どころか、議論をしているフリをすることすらやめてしまった感があります。

　杉田　決めること自体を目的とし、問題点の指摘に真摯（しんし）に応えずに突き進むというのは、まさに組織体の論理そのものですね。国民的な議論を要する憲法について言えば、熟議の体制が整うまでは議論できない。これは憲法を変えることに賛成か反対かに関係なく、至極当たり前の態度です。

　長谷部　広場を守るためには、組織体の論理そのものを突破しなければなりません。自分の生き方を自分で決める。その強さと覚悟が必要です。

**その他の総合面掲載記事**

* [（考論　長谷部×杉田）「分をわきまえろ」という論理](http://digital.asahi.com/articles/DA3S13794407.html?ref=pcviewpage)
* [ゴーン前会長捜査、刑事司法「適正に」　日仏会談でマクロン氏](http://digital.asahi.com/articles/DA3S13794408.html?ref=pcviewpage)